



聖心女子大学

University of the Sacred Heart, Tokyo

2019年度

一般入試 解答と講評

目次

【3教科A方式】

国語	p. 1
英語	p. 2
フランス語 (解答)	p. 3
日本史	p. 5
世界史	p. 6

【3教科B方式】

国語	p. 7
英語	p. 8
日本史	p. 9
世界史	p. 10

【総合小論文方式】	p. 11
-----------	-------

一
【解答】

問一 (1) 懸念 (2) 破棄 (3) 欠陥 (4) 潮流 (5) 柔和
問二 (6) いんねん (7) ひよく (8) さわ (9) しわざ (10) したう

【講評】

出題された漢字は、読み・書きともに高等学校の教科書で使用されているものです。全体的に書きよりも読みの方がよくできていました。点画を丁寧に書かなかったり字を小さく書いたりして、形がはっきりしない場合は誤りと判定します。解答の際には、点画をはっきり大きく丁寧に書くよう心掛けてください。

二

【解答】

問一 A ⑥ B ⑤ C ② 問二 ④ 問三 ⑤ 問四 ⑤ 問五 ④ 問六 ②
問七 生きていく 問八 下の講評を参照 問九 ⑤

【講評】

問一のAは、空欄までの文章から判断します。Bは、生きるために必要というのがポイント。問二は、問一のAと繋げて考えます。この繋がりはよく理解できていて、高い正答率でした。問三は、どちらが上か下か、ということではなく、「違っている」ということ。問四は、戦場の生活のこと。問五では、自分の中の信仰に気づくことになります。問三～問五の正答率は高くありませんでした。問六は、生死の問題ではなく「祈ること」を考える必要があります。問七は、「生活の上でなくてもよい」ということ。問八は、文字通りの意味を問うているのではなく、文脈の中でこの文によって何を言いたいのかを問うています。戦場でもキリスト者として生きることがポイント。

三

【解答】

問一 A ③ B ⑤ 問二 I ② II ⑥ III ⑦ IV ④ 問三 ④
問四 (1) ① (2) ③ (3) ① (4) ② 問五 ② 問六 ⑤
問七 [1] ④ [2] 下の講評を参照 問八 ③ 問九 ①

【講評】

問一は基本単語、問二・問三は基本的な文法を確認する問題です。問二はよくできていましたが、問三は正答率が低く、基本的な文法事項を確実に習得しておくことが望まれます。問四は主語を答えさせて、敬語の使用や文脈から正確に読解出来ているかを確認しました。問五・六は内容読解の問題です。問五は、何を「知らず顔」なのかに着目します。問六は直前の会話文の内容と「かしこう」の関係を考えます。問七の[1]は基本単語の問題で、これを踏まえて[2]を解きます。直前の光源氏の会話の内容が「母ののたまひしこと」と同じだと句宮が言っていることを押さえてください。問八は文章全体の理解度を確認しましたが、あまりできていませんでした。選択肢と本文を丁寧に照らし合わせる必要があります。「露けく」の意味がポイントになります。問九は基本的な文学史の問題です。

四

【解答】

問一 A ⑥ B ④ C ② D ⑤ 問二 a ③ b ④ c ② 問三 ① 問四 ②・④
問五 ④ 問六 下の講評を参照

【講評】

問一は前後の文脈を読み取った上で選びますが、A～Cの正答率は高くありませんでした。問二は単語の意味を正確に把握していることがポイントとなります。b・cはややできがよくありませんでした。問三はパズル感覚で、文章の条件に合うように一つずつ新聞社の名前を埋めていきましょう。問四は全体の論旨を問う問題で、よくできていました。問五は文脈に惑わされず熟語の意味を正しく理解していることが重要です。問六は、「内輪向け」という言葉の意味を正確に理解できているかが大事になります。この場合は、新聞社内での内輪において、書評欄と他の面の関係を述べていることがわかれば、答えられます。「どういうことか」という問いに対しては、「～こと」と答えましょう。

2019年度 3教科A方式 英語

A方式は従来と同じく大問3題が出題されました。前年に続き、2題は論説文で、1題は会話文です。文章の長さや設問の数・種類・難易度は例年とほぼ同じです。ある程度の長さの文章を読み、筆者の主張を理解し、それを自分のことばで説明できる力が要求されます。受験生の皆さんは、日ごろから読解力、作文力、語彙力、文法力などをバランスよく身につけておきましょう。

I.

【解答】

問1. (1) ③ (2) ② (3) ④ (4) ① (5) ③

問2. [A] ④ [B] ③ [C] ①

問3. (1) ③ (2) ④ (3) ② (4) ④ (5) ③

問4. 親子の会話の量は、必ずしも親の収入や学歴と比例するわけではない。(32文字)

問5. conversational turns

【講評】

子どもの言語能力が、家庭における会話・やりとりによって影響を受けることを論じた文章です。問1から問3までは、空所補充や語句の意味を問うもので、基本的な文法語彙力が問われています。問2の適語を選ぶ問題は前後の文章の論理的繋がりを理解することが問われますが、Aの in turn (=because of that) の正答率がとても低かったことは残念でした。問4と問5は記述式で、いずれも文章中に容易に答を見つけることができる問題でしたが、問4は diversity の意味とその中身の理解に差が見られました。正確な読解力が問われます。問5は比較的よくできていました。

II.

【解答】

問1. ア ① イ ③ ウ ① エ ④

問2. (a) ① (b) ④ (c) ③ (d) ③ (e) ① (f) ②

問3. (1) ② (2) ② (3) ① (4) ② (5) ② (6) ② (7) ① (8) ②

問4. ①

【講評】

例年通り、大問の一つとしてこのような会話文を出題しています。女子大と共学校での経験の違いについて議論しています。語句の意味を問う問2の(c)(d)(f)は正答率が低かったですが、内容を問う問3の(2)～(8)はよくできていました。比較的平易な英語でしたので、本文全体の趣旨はかなりわかりやすかったようです。

III.

【解答】

問1. (A) satisfy (B) description (C) assistance (D) inspiration (E) triumphant
(F) identify

問2. 1. ④ 2. ① 3. ④ 4. ②

問3. パラリンピックのボランティアたちは、(パラリンピックでの)経験が、単に選手が最高のプレーができるように(支援)する以上のことを含むことがわかるようになった。

問4. ①

問5. 下記の講評参照

【講評】

パラリンピックのボランティア経験がもたらす相互理解や共感、連帯感について述べた文章です。問1は派生語の問題で、毎年出題されており、まずまずの出来でした。普段から単語を関連語とともに学んで語彙を増やすようにしましょう。問2は本文の内容と一致する文を完成させる頻出の問題で、比較的よくできていました。問3の和訳は理解の度合いに差が見られた問題でした。involveの意味とmake it possibleのitが次のfor the athletes to perform their bestを指すことがわかるかがポイントです。不定詞の意味上の主語がforで表されることや、形式目的語のitの内容がどこに示されているかなど基本的な構文をしっかりマスターしておくことも大切です。問5は毎年出題されている自由英作文で、比較的書きやすいテーマだったと思います。例年通り分量は書けているようでしたが、段落としてまとまりのある構成になっていた答案は多くありませんでした。日ごろから自分の考えを英語でしっかりまとめる練習をしておきましょう。

I.

1. C'est à la fin de la journée, avant le coucher du soleil.
2. Il lisait un livre.
3. Elle quitte Montréal pour passer les vacances dans la maison de Bellevue.
4. Elle regarde le spectacle du soleil qui disparaît à l'horizon.
5. Parce que la famille ira visiter le père Louis-Marie le lendemain.
6. Il est moine.
7. Il habite dans un monastère.
8. Cela signifie « sans l'aide d'un instrument, tel qu'une loupe ou un microscope ».
9. Il aime les mathématiques.
10. Cela signifie « lire avec avidité ».
11. Il aime jardiner, entretenir la forêt qu'il a plantée, admirer la nature.
12. Parce qu'il a lu un article consacré à la situation catastrophique du fleuve Saint-Laurent, au Québec.
13. Il participe à des manifestations et devient président d'une association pour la protection des animaux sauvages.
14. Parce que l'astronomie nous dit d'où nous venons, car elle nous raconte l'histoire de l'univers. Et que l'écologie nous dit comment y rester, en nous faisant prendre conscience des menaces qui pèsent sur notre avenir.
15. Il aime admirer le spectacle merveilleux des étoiles et de l'univers.

II.

ルイ16世とマリー・アントワネット

ルイ16世は、祖父ルイ15世の死後、20歳でフランス国王となります。彼は非常に信心深く、また地理学や科学に情熱を持っています。当初、フランス人は彼の言うことを聞き、彼に敬意を払います。しかし優柔不断で内気な性格のせいで、彼は、王国のさまざまな政治経済の問題に対処することができません。1770年、彼は、オーストリア女帝の娘であるマリー・アントワネットと結婚します。彼女はファッションや、芸術、音楽が大好きです。彼女が大規模なパーティを開いたり、多額の金銭を浪費しているという噂が立ちます。国王夫婦は四人の子供に恵まれます。そのうちの二人は、両親よりも早く、非常に幼いうちに亡くなってしまいます。フランス革命の時期には、ルイ16世とマリー・アントワネットはフランス国民に対する叛逆という理由で告訴され、死刑判決を受けます。ルイ16世は1793年1月21日に命を落とします。マリー・アントワネットは1793年10月16日にギロチンにかけられます。

III.

1. va
2. retour
3. Pourquoi
4. soif
5. mal

IV.

1. Non, il n'y a personne.
2. Non, je ne veux plus regarder la télévision.
3. Non, je ne suis jamais allée à Paris.
4. Non, je ne sais rien.
5. Non, je n'aime pas chanter.

V.

1. Je préfère la cuisine italienne, parce que j'aime les pâtes.
2. Oui, je vais souvent au musée, parce que j'adore peindre et que je veux m'inspirer des œuvres du passé.
3. Oui, je voudrais aller en Suisse, parce que je voudrais en savoir davantage sur les origines de la Croix-Rouge.

VI.

1. dont
2. que
3. qui
4. où ただし qu' も正答とする。
5. où

VII.

1. achèterais
2. avons visité
3. fasse
4. est restée
5. avait eu
6. voulait
7. est mort
8. aura trouvé
9. Fais
10. mangeant

2019年度 3教科A方式 日本史

(I)

【解答例】

- 問1 ア 和同開珎 イ 12 ウ 陸奥 エ 借上 オ 撰銭
問2 (a) ③ (b) ④ (c) ④ (d) ② (e) ③ (f) ④ (g) ①
(h) ② (i) ③ (j) ④
問3 (1) 銅鐸 (2) 大仏造立 (3) 守 (4) 大輪田泊 (5) 慶長小判

【講評】

日本史のなかの貨幣に関する問題です。問2のマーク式のなかでは、(c)の正答率が低く、②と迷ったようですが、条坊制を持つ最初の都は藤原京です。なお、問1 イは、文意の取り方によっては和同開珎を含まないとも解されるので、「11」も正答としました。

(II)

【解答例】

- 問1 (A) 平清盛 (B) 六波羅探題 (C) 両統迭立 (D) 論旨 (E) 花の御所
(F) 有職故実 (G) 伏見城
問2 (a) ④ (b) ③ (c) ② (d) ② (e) ① (f) ④ (g) ①
(h) ③ (i) ② (j) ① (k) ①

【講評】

正答率については概ね例年通りでした。誤解答が多かったのは、問1の(D)(E)(G)で、(D)は「論旨」などの漢字間違いが目立ち、(E)については「金閣(寺)」との誤答、(G)については「安土城」との誤答が多かったです。(E)については「洛中」「室町」というキーワードにより花の御所だと確定されます。また、(G)については「桃山」とのキーワードにより伏見城ということになります。

(III)

【解答例】

- 問1 (1) 刀狩 (2) 田畑永代売買の禁止
問2 百姓が武器を持つことを禁止し、兵(武士)と農(百姓)の身分の分離が進んだ。
問3 ③
問4 ア 豪農 イ 無宿(帳外) ウ 天明 エ 松平定信 オ 人足寄場
カ 旧里帰農 キ 困米 ク 徳川家斉 ケ 関東取締出役
問5 (a) ② (b) ③ (c) ③ (d) ① (e) ④

【講評】

安土桃山時代から江戸時代の民政を中心とした問題です。問2は、豊臣秀吉によって出された刀狩令が、兵農分離すなわち江戸時代の身分制社会を形作るうえで大きな画期となったことについて問うていますが、概ね良く出来ていました。ただし、使用する用語が指定されているにもかかわらず、これら用語を使用しない答案も少なからずありましたので、問題文を注意深く読むよう日頃から心がけておく必要があります。

(IV)

【解答例】

- 問1 ア 近代太政官(太政官、太政大臣も可) イ 伊藤博文 ウ 日清
エ 立憲政友会(政友会も可) オ 黒田清隆 カ 超然主義(超然も可)
キ 松方正義 ク 軍部大臣現役武官制
問2 i ①、②(順不同) ii ①、③(順不同) iii ③ iv ③ v ③
vi ①、④、⑤(順不同) vii ②、③(順不同) viii ③ ix ③、④(順不同)
x ④ xi ④

【講評】

明治・大正時代の内閣総理大臣・内閣制度についての問題です。問1のイ、ウ、オ、クは正答率が高かったのですが、カについては蛮勇演説などの誤りが散見されました。クについても文官任用例と混同する誤答が見られました。問2は基本的な知識を尋ねる問題なので、総じて高い正答率が示されました。

2019年度 3教科A方式 世界史

(I)

【解答例】

問1 ⑤ 問2 ③ 問3 ⑤ 問4 ② 問5 郷挙里選

問6 中央から地方に中正官を派遣し、中正官が郷里の評判によって、人物を9等に分けて推薦する。中央政府はこれにもとづいて官職を与える。 問7 ②

問8 門閥貴族を抑えるため、隋の文帝が開始した科目試験による官吏任用制度である。隋・唐では貴族制度を十分打破することはできなかったが、宋代には太祖が皇帝みずからがおこなう殿試を導入し、3段階制の試験制度とした。殿試によって皇帝と官吏の結びつきが強固なものとなり、官吏任用制度として確立された。

問9 ① 問10 ①

【講評】

(I) は中国の官吏任用制度に関する問題です。記述式の問題では、穴埋めの問5はよくできていましたが、問6や問8では部分的にしか合っていない解答が目立ちました。単語のみを覚えるのではなく、制度の内容や変遷も理解するように心がけましょう。

(II)

【解答例】

問1 ④ 問2 バビロン捕囚

問3 (1) ②

(2) 唯一の神ヤハウェに選ばれ、その契約を守る自分たちの民族こそが救済を約束されていると考える思想

問4 (1) ③ (2) ④ (3) ディアスポラ 問5 ①、⑤ (順不同) 問6 ②

問7 (1) アッコン (2) ① (3) ④

【講評】

聖都エルサレムをめぐるユダヤ、ヨーロッパ、イスラームの古代、中世史に関する出題です。基礎的な事柄はもちろん、多少細かな知識を問う問題についても全般的に良好な成績だったと思います。とくにローマの五賢帝に関する問4(1)やマムルーク朝についての問7(2)(3)は9割以上の方が正しく答えていました。反面、やや難しいと思われたのは問3(2)の選民思想を問う設問で、正確さを欠く答案が見受けられました。たとえばヤハウェは救世主メシアとは異なりますし、救済は死後のことと明言されているわけではありません。異なる文化を理解するには、先入観にとらわれないことが大切です。

(III)

【解答例】

A 問1 ② 問2 ④ 問3 ② 問4 ① 問5 カーバ 問6 ②

B 問7 ④ 問8 メイフラワー 問9 ① 問10 代表なくして課税なし

C 問11 ③ 問12 ミシシッピ 問13 メキシコ 問14 ④ 問15 ゴールドラッシュ

【講評】

Aはオスマン帝国の台頭に関する問題で、問1と問3はよくできていましたが、20世紀の事件と関連づけた問4の正答率は3割弱(約27%)でした。B、Cは北米植民地とアメリカ合衆国の誕生に関する問題でしたが、全体的に正答率が高く、とくに問7と問11は9割以上でした。その反面、アメリカ＝メキシコ戦争に関する問13と、独立戦争当時のフランス国王についてたずねた問14はやや難しかったようです。

(IV)

【解答例】

問1 阮福暎 問2 ピニョー 問3 劉永福 問4 黒旗 問5 ②

問6 ④ 問7 ④ 問8 ⑤ 問9 ④ 問10 ②

問11 ジュネーヴ協定後南を支配した親米派のゴ＝ディン＝ジェムに対して、北の支援を受けた南ベトナム解放民族戦線が抵抗を開始した。アメリカは北ベトナム爆撃を行ったが、北は屈服せず、1973年、ベトナム(パリ)和平協定によってアメリカはベトナムから撤退した。 問12 ②

【講評】

全体として6割前後の正答率でしたが、いくつか正答率の低い設問がありました。問8のラオスのインドシナ連邦編入は多くの教科書に記載されていますが、1割強(13%)の正答率でした。問11は用語の理解を問う出題ですが、出来の良い答案とよくない答案の差がはっきり出ました。

一

【解答】

問一 (1) 操業 (2) 草案 (3) 膨 (4) 帰途 (5) 致命

問二 (6) おおむ (7) しょうあく (8) はくび (9) いみょう (「いめい」も許容) (10) い

【講評】

出題された漢字は、読み・書きともに高等学校の教科書で使用されているものです。全体的に書きよりも読みの方がよくできていました。点画を丁寧に書かなかつたり字を小さく書いたりして、形がはっきりしない場合は誤りと判定します。解答の際には、点画をはっきり大きく丁寧に書くよう心掛けてください。

二

【解答】

問一 ア ⑥ イ ③ ウ ④ 問二 ⑤ 問三 ④ 問四 ③ 問五 ⑤

問六 X ② Y ① Z ⑤ 問七 ① 問八 遠い世界から彼に呼びかける声 問九 (1) ⑤ (2) ③

【講評】

問一・問二は、空欄の前後をよく読んで文脈に合う語や慣用句を選びます。問四は、この空欄を境に主人公明石のそれまでの生活が変化することを捉え、逆接の接続詞を選びます。問三は、傍線部Aの前で明石が自分をどう批判しているか、に注目。問五のヒントは傍線部B直後の四つの段落と、本文最後の三つの段落。「風が見える」眼と見えない眼の違いが書かれています。問七は、本文中に述べられていること、いないことを見極めて答えます。問八は、幼少期の思い出に関する記述の中から、貝殻から受け取った「大きな意味を持つ」何ものか、を端的に言い表した字句を探します。問六は修辞法、問九は文学史の知識を問うています。全体的によくできていましたが、問九の正答率が高くありませんでした。

三

【解答】

問一 A ② B ③ C ① 問二 a ⑤ b ⑧ c ④ d ⑨ e ③

問三 (1) ① (2) ② (3) ⑤ (4) ① 問四 W 児 X 京 問五 ⑤ 問六 ④

問七 ④ 問八 ④

【講評】

問一は基本単語、問二は基本的な文法を確認する問題です。bの「れたまふ」を尊敬とする誤答が目立ちました。問三は主語を答えさせて、敬語の使用や文脈から正確に読解出来ているかを確認しました。(1)・(3)は高い正答率でした。問四は指示語を問い、登場人物の人間関係と位置関係が理解できているかを確認する問題です。問五・六は内容読解の問題です。問五は、直前の「賢き御心」「かしづききこえむ」という敬語表現に着目します。問六は、歌のやりとりであることを踏まえて解釈します。光源氏の歌を正しく解釈できていない解答が多くありました。問七は文章全体の理解度を確認し、さらに「あやしき道」「夢の心地」という表現の理解を問いました。問八は基本的な文学史の問題です。

四

【解答】

問一 A ④ B ⑥ C ③ D ② 問二 a ① b ⑤ c ⑤ 問三 X ⑥ Y ④

問四 [1] ③ [2] 単身者およびそのスタンスを指す呼称 問五 個人は、自～になった。

問六 ② 問七 ①・④

【講評】

問一・問二は前後の文脈から判断します。段落と段落のつながりも考えましょう。問二のc「草分け」は物事の初め、またはそれをはじめた人を意味する単語です。問三は、XとYが対になること、Yの直前の「個人の嗜好に対応したフレキシブルな生産」という表現や本文全体の主旨から絞り込めます。問四は、「おひとりさま」以外の呼称について述べた部分。[2]の抜き出し問題は全体的によくできていましたが、「単身者」を「単独者」とする誤記が目立ちました。問五の「個人化」については、波線部の直後の段落に二点にわけて述べられ、さらにその次の段落で一文にまとめられています。正答率は高かったのですが、文の途中から抜き出している解答もありました。設問の文章によく注意してください。問六は「おひとりさま」が「後期近代」と「前期近代」のどちらの個人化にあたるのかを考えれば、難しくありません。問七は全体の主旨を問う問題です。②③⑤とも本文から大きくはずれています。全体的によくできていました。

2019年度 3教科B方式 英語

B方式は大問3題が出題されました。2題は論説文で、あと1題は語法・文法問題が出題されています。マークシートで答える問題が多いですが、高得点を取るための勉強の仕方はA方式と変わりません。日ごろから学校の勉強を中心に基礎力をしっかりとつけておきましょう。

I.

【解答】

問1. ③

問2. (A) ③ (B) ② (C) ① (D) ④ (E) ① (F) ①

問3. (ア) ③ (イ) ③ (ウ) ① (エ) ③

問4. (1) ① (2) ② (3) ② (4) ①

問5. 文例1. The study shows that exercise has a positive effect on language learning.

文例2. The study shows that students who perform light exercise tend to be better at language learning, compared with those who do not exercise. など

【講評】

エクササイズが第二言語の学習効果にどのような影響を与えるか検証した実験結果を述べた文章です。マーク式の問1は本文の内容に関する問い、問2から問4は、本文中の語句や動詞の正しい形を選ぶ問題でした。一部を除きまずまずの成績でした。問5は本文の主題を一文にまとめる問題でした。自分の言葉でしっかり書いている答案もありましたが、本文中の一文をそのまま書き写しただけの回答も少なからずありました。読んだものを自分の言葉でまとめる習慣をつけておくことはとても大切です。日頃から心がけて練習しておきましょう。

II.

【解答】

問1. (1) ② (2) ② (3) ④ (4) ① (5) ②

問2. (ア) ②、③ (イ) ③、① (ウ) ①、⑥ (それぞれ、この順で完答のみ)

問3. (A) ③ (B) ① (C) ④ (D) ① (E) ②

問4. (1) ① (2) ② (3) ① (4) ① (5) ② (6) ①

問5. (BBCの)テスト(検証、実験)は、多くの人が自分の音楽の才能(潜在能力)を過小評価していることを示している。

【講評】

BBCが音楽の才能について行なった大規模な実験では、音楽を生業としている人とそうでない人にはあまり音楽の才能について相関がないことが示され、音学教育のあり方についても論じている文章です。マーク式の部分は、空所に適語を補充するもの、単語を並べ替えて正しい文にするもの、単語の英語での定義を完成させるもの、短文が本文の内容に一致するかどうかを判断するものでした。マーク式の設問は全体的にまずまずの正答率でしたが、正答率の大変低かった問3の(E)は、collaborative(協力的)の意味の英語での説明で、~involving two or more (parties) working togetherの部分のpartiesは(行動を共にする)団体やグループという意味で使われています。partyは多義語で、社交的会合という誰でも知っている意味のほか、政党という意味でもよく使われる単語ですね。問5の英文和訳の出来は差が出たところですが、The test indicates that~の大枠が理解できていない答案や、underestimateの意味が捉えられていない答案が多く見受けられました。基本的な語彙や文法事項を定着させるようしっかり学習しておきましょう。

III.

【解答】

A. 1. ① 2. ③ 3. ① 4. ① 5. ① 6. ① 7. ③ 8. ① 9. ④ 10. ④

11. ④ 12. ④ 13. ② 14. ① 15. ②

B. (1) ③ (2) ③ (3) ② (4) ② (5) ① (6) ②

C. (2) (4) (5) (6) (順不同)

【講評】

文法・語法・イディオムなどに関するマーク式の問題で、大部分は基本的なものです。この大問は日ごろからの地道な勉強がものを言うところであり、ほとんど正解できるぐらいにしておいてほしいと思います。

2019年度 3教科B方式 日本史

(I)

【解答例】

- 問1 ア 延暦 イ 馬子 ウ 菅原道真 エ 興福 オ 末法
問2 A ① B ⑩ C ② D ⑥ E ⑤
問3 ③
問4 (a) ③ (b) ① (c) ④ (d) ② (e) ② (f) ① (g) ①
(h) ④ (i) ③ (j) ③ (k) ④ (l) ①

【講評】

古代の寺院に関する問題です。問2の寺院の所在地を答える問題は、Cの仁和寺を除いて正答率が低く、やや難しかったかもしれません。問4(k)は②に誤答が集中しましたが、藤原基経が関白となったのは光孝天皇の時です。

(II)

【解答例】

- 問1 (a) ④ (b) ② (c) ③ (d) ④ (e) ② (f) ① (g) ③
(h) ③ (i) ① (j) ④
問2 (ア) 1189 (イ) 1441
問3 戦国期の一向宗は蓮如に率いられ、講という集合体を組織するとともに、御文という平易な文章を用いることで教線を拡大した。特に北陸地方ではその勢力が強く、加賀国の一向一揆は富樫氏を追い出し、守護権力と同等の実力を獲得するに至った。

【講評】

問2の年号問題の正答率が低かったです。特に(ア)は教科書では表にしか出てこないことも多く難問だったかもしれません。問3については「講」を「溝」と誤読し、「室町幕府と溝ができた」といった誤解答が散見しました。

(III)

【解答例】

- 問1 ア キリシタン イ イギリス ウ 朱印 エ 徳川家光
問2 (a) ② (b) ① (c) ② (d) ② (e) ③ (f) ② (g) ②
(h) ① (i) ④ (j) ④ (k) ③

【講評】

(III)は安土桃山時代から江戸時代の対外関係を中心とした問題です。正答率の低かった問1のイは、アジア・日本への貿易進出をはかったヨーロッパ諸国の位置づけについて、整理された理解ができているかを問う問題です。スペイン・ポルトガルに遅れてアジア貿易に進出し、新教(プロテスタント)国であったというリード文の情報に着目します。旧教国か新教国かの相違は、江戸幕府との関係のあり方に大きな影響を与えた点ですので、十分に理解しておく必要があるでしょう。一方、これらヨーロッパ諸国が東アジア貿易で根拠地とした場所の相違を問うたのが問2の(a)ですが、この問題は高い正答率でした。

(IV)

【解答例】

- 問1 A 北里柴三郎 B 大森房吉 C 高峰譲吉 D 野口英世 E モース
F 湯川秀樹 G 木村栄
問2 ア コッホ イ 関東大震災(関東大地震も可) ウ 黄熱 エ 文化
オ z(ゼット)(木村も可)
問3 i ④ ii ②、④(順不同) iii ① iv ③ v ② vi ③ vii ①

【講評】

近代日本で科学に貢献した人物についての問題です。問1ではBの正答率が低かったです。Aの北里柴三郎の「柴」を「紫」とするもの、Dの野口英世の「英世」を「英雄」、「英夫」とする誤答が散見されました。問2アの正答率は極めて低かったのですが、オについては比較的高い正答率が得られました。問3は重要語句集の頻度の高いものからの出題ですが、学校現場での取り扱いの関係からか、全体的に正答率は低いものにとどまりました。

2019年度 3教科B方式 世界史**(I)****【解答例】**

- 問1 (ア) マハーバーラタ (イ) ラーマーヤナ (順不同) 問2 玄奘
 問3 ⑤ 問4 ③ 問5 ③ 問6 ② 問7 ① 問8 ⑥
 問9 ④ 問10 ③ 問11 ⑤ 問12 ⑤

【講評】

(I) は古代のインドに関する問題です。問1はよくできていました。問2は異なる時期に、同じナーランダール僧院に行った義浄とする誤答が散見されました。問3は正答率が低く、④を選んだ人が多かったです。パータリプトラがインダス川流域でないことを思い出せば、誤答とすぐわかりますので、地図をよく見ておくといよいでしょう。問4、問5、問12の正答率は8割を超えていました。問6、問7、問9、問11も半分以上の人が正解していました。問8は組み合わせ問題だったため、難しかったようです。問10も正答率が低かったです。

(II)**【解答例】**

- 問1 ③ 問2-1 ②、④ (順不同) 問2-2 ① 問3-1 ② 問3-2 ④
 問4-1 ②、③ (順不同) 問4-2 ② 問5-1 ③ 問5-2 ④ 問6 ①

【講評】

中世から近世はじめまでのヨーロッパに関する出題ですが、正答率が8割を超えた設問が2つに対し、5割を下回った設問が4つあって、全体にあまり良い出来とは言えませんでした。もっとも正答が少なかったのは、文化史的な感覚が問われる問3-1でした。ヴァロワ朝はルネサンスや宗教改革が起こった時代のフランスを支配した王朝ですから、それに当てはまらない選択肢は、中世の文化を代表する知識人、トマス＝アクィナスについての記述であるということになります。問5-2、問6の正答率もややふるいませんでしたが、これは少し難しかったかもしれません。

(III)**【解答例】**

- A 問1 ④ 問2 ① 問3 ③ 問4 ② 問5 ①
 B 問6 ① 問7 ③ 問8 ④ 問9 ③ C 問10 ③ 問11 ② 問12 ①
 問13 1908年にオーストリアがボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合すると、ロシアを後ろ盾として領土拡大をめざしていたセルビアでは反オーストリア感情が高まった。 問14 ④

【講評】

ロシア帝国の発祥から崩壊までを、周辺諸国の動向も視野に入れながらたどる問題です。Aの問1から問4までの正答率は比較的良好でしたが、問5のみ4割弱(約35%)と低かったのは意外でした。B、Cでも同様の傾向が見られ、基本的な問題の正答率は非常に高かったのですが、問9、問12、問14のようによくわしい知識が問われる問題になると4割程度でした。問13の記述式問題は、最初からあきらめてしまったのか、空欄の解答が多かったのは残念でした。

(IV)**【解答例】**

- 問1 ④ 問2 ② 問3 ③ 問4 ⑤
 問5 国債制度によって国家が債務を負うことを可能にし、さらにイングランド銀行が国債を引き受け、支払いを保証することによって、国債の信用を確保し、多額の資金を集めることに成功した。
 問6 ② 問7 ④ 問8 ②、④ (順不同) 問9 ② 問10 ③
 問11 ④ 問12 ③、⑤ (順不同)

【講評】

標準的な設問の割には、正答率の低さが目立ちました。問1の「大ブリテン王国」の成立については多くの教科書が触れていますが、4割弱(約35%)の正解にとどまりました。問4は難しそうですが、著名な戦争の年代を理解していれば間違えません。問5では、「国債」「イングランド銀行」という用語の意味を理解していない解答が目立ちました。問6では②と④は矛盾しているの、どちらかが誤りであることは明白です。問12も正答率が低かったのですが、「人民憲章」が参政権運動から生まれてきたことを理解していれば、正解に到達できます。

2019年度 総合小論文方式

【解答例】

問1

1. (a) 革新 (b) 人口 (c) 環境
2. 下線① 目新しさ 下線② 発展 下線③ 災害
3. ① 地震 ② 火山の噴火 ③ 病気の流行 ④ 革命
⑤ 征服 (その他、「植民地化」「政権崩壊」も可)
4. incremental changes

問2

- ① 19世紀の産業革命での製造業における機械の導入
- ② 20世紀初頭におけるオフィスの機械化・電化
- ③ 20世紀後半におけるコンピューターの普及

問3

肉体労働タスク (4) 定型タスク (4) 抽象タスク (9)

問4

1. 幼児たちの描きあげた絵の枚数では、予期せぬごほうび群、ごほうびなし群と比較してごほうび予期群が多かったが、絵の質は他の2群と比べ、ごほうび予期群が低かった。
2. 予期せぬごほうび群、ごほうびなし群の幼児は以前と同じように絵を描いていた一方で、ごほうび予期群の幼児では、明らかに自発的に絵を描く者が少なかった。

問5

1. 人工知能の導入に伴い業務範囲が増えると答えた者ほど仕事に対する意欲が湧くと答えた一方、業務範囲が減ると答えた者ほど、仕事に対する意欲を失うと答えた。
2. 業務範囲は報酬と連動するので、業務範囲が減ることで報酬が減ると予測する者は、労働への意欲を失うと回答する一方、業務範囲が増え、報酬が増加すると予測する者は、労働意欲を失わないと回答する。

問6 (下の講評を参照)

【講評】

今回の総合小論文方式のテーマは「社会の変化」でした。様々なきっかけで生じたこれまでの社会の変化を資料から読み取り、人工知能(AI)の普及により今後到来すると予測される変化について論じてもらいました。

問1では、「文化的変化がいかに生じるのか」を主題とした英文の読解でした。ここでは、基本的な単語力について準備不足と思われる解答が散見されました。

問2では、過去に生じた新技術の導入と、それに伴う社会の変化について論じた日本語文章の読解でした。おおよその方がよく解答できていました。

問3では、折れ線グラフを適切に読み取ることが可能かどうかを問いました。グラフの縦軸や横軸、原点の数値などに注意を払わず、ミスをした解答が見られました。

問4では、幼児によるごほうびの予期が、幼児の絵を描く行動に与える影響について、実験的に検討した結果を文章から読み取れるか問いました。重要な情報を書き落とすなど、文章を読み取れていない解答が散見されました。

問5では、棒グラフの特徴を、問4の内容と併せて論じることが求められました。問4の内容をグラフの特徴に結び付けられない解答が目立ちました。

問6では、問1から問5の内容を踏まえ、人工知能の導入がもたらす変化について論じることを求めました。解答に十分に時間を割けず、文字制限の下限である600字に届かない解答が散見されました。また、問1から問5の内容を羅列しているだけの解答もみられました。「適切な時間配分」と「異なる分野の情報を束ねる視点」が、高得点のポイントでした。